

# 平成20年度事業報告書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

特定非営利活動法人 MERI Japan

## 1. 事業実施の概略

特定非営利活動法人 MERI Japan は医療の質と安全の向上に寄与することを目的として医療技術教育・研修、医療技術研究の枠組みが実現するために政府、学会、世論への働きかけを実施した。具体的には本法人の定款第5条第1項第1号 及び の事業として以下の事業を実施した。

一般市民を対象とした医療に関する啓蒙活動

医療に関する情報発信

医学界に対する働きかけ

また、定款第5条第1項第2号のその他の事業は実施しなかった。

## 2. 事業の実施に関する事項

### 1) 特定非営利活動に係る事業

今年度は特定非営利活動に係る事業のみを対象とし、次に挙げる基本活動を主体として実施した。なお、経費の発生する事業は実施しなかった。

#### \* 基本活動（正会員の全員参加を前提とする活動）

一般市民を対象とした医療に関する啓蒙活動

以下の来年度開催予定の市民フォーラム開催への準備を行なった。

- 市民フォーラム「先端医療技術を安心して受けるために ～ 献体を用いた医療技術トレーニングの必要性と今後の課題 ～ 」

日時・場所：平成21年7月11日（土）・中電ホール（名古屋市）

主催：特定非営利活動法人 MERI Japan

参加人数：約400名を予定

プログラム：

基調講演 「人体試料に関わる法律と課題」

講師：樋口範雄（東京大学大学院法学政治学研究科 教授）

パネルディスカッション

パネリスト：安藤明夫（中日新聞社 生活部 次長）

大塚耕平（中央大学大学院・早稲田大学 客員教授、参議院議員）

七戸俊明（北海道大学大学院医学研究科腫瘍外科 講師）

蜂谷裕道（医師、NPO 法人 MERI Japan 理事長）

樋口範雄（東京大学大学院法学政治学研究科 教授）

コーディネーター：有江活子（フリーアナウンサー）

- 第15回日本最小侵襲整形外科学会サテライト市民フォーラム「自分と家族、どのような“おくりびと”になりますか？ ～ 死を悼む事と先端医療への貢献を考える～ 」

日時・場所：平成21年10月25日・円覚寺（鎌倉市）

主催：第15回日本最小侵襲整形外科学会

後援：特定非営利活動法人 MERI Japan 他

参加人数：約450名を予定

プログラム：

基調講演

講師：足立大進老師（臨済宗円覚寺派管長）

パネルディスカッション

パネリスト：井上治代（東洋大学ライフデザイン学部准教授、社会学博士）

棚島次郎（東京財団研究員、自治医科大学客員研究員）

平川和男（湘南鎌倉人工関節センター センター長、MERI Japan 理事）

齋藤 滋（湘南鎌倉総合病院 心臓センター 循環器科部長・副院長）

芝崎成光（神奈川県葬祭業協同組合 理事長）

コーディネーター：有江活子（フリーアナウンサー）

医療に関する情報発信

他に新聞社等マスコミに働きかけを行ない、紙上等でサージカルトレーニングの必要性、MERI Japan の活動等が紹介された。主な実績は以下の通り。

- Japan Medicine 誌（掲載 2008年9月3日・5日号）
- 日本経済新聞（取材）

学会への働きかけを下記の形で行なった。

- 第11回日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会（2008年11月22日、神戸市）にて蜂谷裕道がパネルディスカッション「低侵襲脊椎手術の教育システム」にパネリストとして登壇。
- 第35回日本股関節学会（2008年12月6日、大阪市）では当法人の企画でシンポジウム「股関節外科医育成システムに Cadaver は必要か」を開催することができた。当法人からは糸満盛憲と蜂谷裕道が座長を務め、辰巳治之と平川和男がパネリストとして登壇した。また、協力者である参議院議員の大塚耕平先生と札幌医大 白菊会会長の浅黄谷登志氏、「外科系医療技術修練の在り方に関する研究班」幹事の七戸俊明先生もパネリストとして登壇し、ディスカッションが行なわれた。

#### \* 基本活動の実施体制

会員

正会員(個人)：18名 正会員(法人)：1法人 賛助会員：0名

運営組織の見直し

当年度はWG設置を必要とする活動はなく、設置しなかった。

#### 2) その他の事業

今年度は実施しなかった。

以上